

# 海上アクセス実現可能性調査(大分空港 - 大分市航路)の結果

## 【調査の概要】

大分市中心部と大分空港とを結ぶ新たなアクセス手段として、海上交通によるアクセスの可能性について調査候補となる船型の検討、発着地の整備費および整備期間の試算、収支見込みについて調査

		案1	案2	案3
船型		高速船		ホーバークラフト
				
		写真(例) 津 - 中部国際空港		写真(例) イギリス・ボーツマス - ホワイト島
発着地	空港側	海際部(A)	中間部(B)	空港ビル前(C)
	大分市側	大分港西大分地区(D)		旧ホーバー基地(E)
利便性	速度	30ノット(時速55km) ~ 40ノット(時速74km) 片道約30 ~ 40分		45ノット(時速83km) 片道約25分
	空港側接続	空港ビルまで遠い(約750m)	中間(約250m)	空港ビルまで近い(約40m)
導入	初期投資額	約60 ~ 150億円 船3隻 + 港新設	約140 ~ 230億円 船3隻 + 港新設	約50 ~ 75億円 ホーバ-3隻 + 現発着地
	運航開始時期	約6 ~ 12年後 工事期間による	約12年後 工事期間による	約4 ~ 5年後 ホーバ-の調達期間による
継続性	修理点検費用	船舶および主要部品が汎用のため比較的安価	船舶および主要部品が汎用のため比較的安価	エンジン、プロペラ等が特殊部品のため比較的高価
	部品調達	汎用品が多く、長期的にも調達が比較的容易	汎用品が多く、長期的にも調達が比較的容易	特殊部品の長期的な調達手段の確保が必要
課題		空港側接続バスの乗継ぎへの抵抗感		発着地周辺での発生音や水しぶき

初期投資額には、給油施設、修理工場、乗継バス(空港ビル ~ 空港側発着地間)は含まず